

資料 3 - 5

WHO-FIC 2005/1.2

分類に関する WHO のビジネス・プラン

・・・ 分類は保健情報の基本要素 ・・・

医療行為などの保健システム関連項目を含め、死因、疾病、障害、健康のような、
重要な健康指標を補足するための意味のある情報ツールとして、
世界共通で活用するための分類体系

WHO、ジュネーブ 2005 年第 1.1 版

本ビジネス・プランは、2005～2010 年を対象としている。
本ビジネス・プランは、年次進捗状況報告により毎年見直しされ、
たえず更新される。

謝辞

本ビジネス・プランは、以下の WHO-FIC 協力センターの協力により作成された。

オーストラリア：オーストラリア国立保健福祉研究所、および国立保健分類センター
ブラジル

カナダ：カナダ保健情報協会

中国

フランス：INSERM、CTHERNI

ドイツ：DIMDI

ロシア連邦

オランダ

北欧協力センター（デンマーク、フィンランド、アイスランド、ノルウェイ、スウェーデン）

英国：ONS/NHS

アメリカ合衆国：国立保健統計センター

ベネズエラ

WHO 地域事務所

AFRO

AMRO (PAHO)

EMRO

EURO

SEARO

WPRO

WHO 技術部

WHO EIP 担当者

WHO アドバイザー・グループ（2004 年 11 月 1～2 日に協議）

目 次

要 約	4
1. はじめに	6
1.1 ポートフォリオ：「国際分類ファミリー」	6
1.2 WHO の資産	7
1.3 課題	8
2. ポートフォリオの優先事項	10
2.1 インフォメーションパラドックス (information paradox)	10
2.2 全国疾病統計から国際疾病統計へ：ICD XM	16
2.3 ICD の改訂	19
2.4 スイス・アーミー・ナイフで保健活動を評価する：ICF	22
2.5 可能な任務：医療行為の分類	25
2.6 電子保健レコード：用語集と分類体系のリンク	28
3. 総合的な戦略の方向性	32

要約

全体のまとめ	このビジネス・プランには、WHO の分類体系とその支援構造を 21 世紀に取り入れ、患者の治療目的から保健統計にいたるまで、発展を続ける保健情報について WHO の分類体系を位置づけるために実施すべきことがらがまとめられている。戦略の方向性、ビジネスの推進要因、必要となるリソース、潜在的パートナー、および今後の活動が記載されている。現在そして未来の関係者にポートフォリオの優先順位を伝え、現在の保健イニシアティブにとって分類体系が有意義なものとなるよう、認識済みの多数の課題を提示する。
情報ベース	保健関連の重要課題を効果的に処理するには、強力な情報ベースが必要である。問題を識別し、記述する必要がある。基本的な原因を調査し、文書化しなければならない。進捗状況を監視し、実施したアクションを評価する必要がある。「国際分類ファミリー (WHO-FIC)」として提示されている保健分野に関する WHO の分類体系は、保健情報の重要な情報ベースである。
分類ファミリー	WHO-FIC は、ICD (国際疾病分類) の死因と疾病、ICF (国際生活機能分類－国際障害分類) の障害と健康など、重要な保健状況を取り込むための意味のある情報ツールを提示することを目的としている。ファミリー財には、特殊使用やプライマリー・ケアのほか、コーディング、命名法、用語集などに対応するための「関連」財を含め、その他の「派生分類」も含まれている。これらの財は、多くの先進国で健康保険の基礎となっており、そうした制度自体が大規模な産業となっている。
国際的な公共財	WHO は、各種知識ネットワークの協力のもとに開発したこれらの国際的な公共財について、貴重な知的所有権を保有している。分類は国際標準として幅広く利用されており、平均寿命、疫学の変遷、疾病の負担など、前世紀の保健状況の進捗について非常に有益な知識を得ることができた。WHO は、加盟国でそうしたツールを利用できるように、開発と維持を実施するための合法的な権限を保有している。
知識ネットワーク：WHO 協力センター	WHO は、積極的な知識ネットワークの協力を得て、過去 50 年にわたり WHO-FIC を作成した。現在、このネットワークには 13 の協力センターが参加し、さらに拡大を続けている。ネットワークは、各国の統計部門で構成されており、主要な言語グループと主要な地域が含まれている。このネットワークは、WHO-FIC の実施と今後の展開に

ついて、莫大な知識リソースとなっている。

グローバル・ビレッジのための分類を考える

保健情報技術や保健ケア・システムが向上したことから、さまざまな次元の保健状況を取り込み、各国の国際比較を実施できるようにするため、データ収集の目的に適した分類体系を考えなおす必要がある。現在の世界には大きな差異がある。一方には、電子データベースにすべての保健情報が正確に保管されている人々がおり、もう一方では、健康上の大問題を抱える数十億の人々について、情報がまったくない状況である。

WHO と国際保健情報標準

WHO は、国際的な公共財を維持するには定常的なリソースが不足している。したがって、WHO-FIC ネットワーク内部でさまざまな展開を実施するには、積極的な活動を実施して、他の関係者の協力を得る必要がある。WHO は保健情報の管理人として、この分野の国際標準を指導する必要がある。国際分類には多大な投資が必要になるが、多大な利益も得られる。さらに、優秀なスタッフを活用し、財務を節約することにより、多くの国で別々に実施されているさまざまな活動について、強化や融合性を実施できる。死因の国際標準として世界中で利用されている ICD は、HIV/AIDS、マラリア、結核、MDG（ミレニアム開発目標）などの主な保健イニシアティブの結果を監視するため、成功率評価項目に統合する必要がある。保健活動の成果の評価と生産性の評価については、ICF を利用することができる。さまざま異なる保健業務や環境の間で保健情報を電子的な保健記録として共有するには体系的な標準用語集が必要になることから、用語集の基礎を作成するために WHO-FIC の新しい活用方法もおこってくるであろう。

問題と解決のシナリオ

本プランでは、主な問題と考えられる解決策について概要を記述し、投資の根拠、継続的な改善と評価の実施、および回収可能な利益を記述することを目的に、投資対効果の検討を行なう。WHO-FIC ネットワークと他の団体機関の役割についても模索する。WHO-FIC の維持と展開を実施しない場合のリスクについても明確にする。世界の保健問題は緊急かつ重要であり、通常の業務では不十分である。死亡数や保健評価などの基本情報なしには、主な保健プロジェクトの達成度合いを評価することはできない。他の機関団体が営利目的でさまざまなコンポーネントを作成した場合には、保健情報が断片化し、整合性を失うリスクがある。結論として、多角的な投資対効果検討書ができあがった。本書には、中心分類体系の維持と開発を行なうための基本リソース、WHO-FIC をさらに展開するためのリソース割り当ての検

討、およびその他の応用ビジネス項目が記述されている。

1. はじめに

WHO は、疾病、死因、その他の公共の保健項目について、必要に応じて国際分類を確立および検討するための合法的な権限を有している。こうした目的から、WHO はさまざまな国立機関や国際機関と協力し、保健および保健関連の総合的な分類体系を作成した。WHO は、貴重な知的財産として国際分類ファミリー（WHO-FIC）を保有し、国際社会のため、保健情報システムの基本要素となる分類の支援について指導的立場をとっている。

保健科学、管理科学、技術開発などが発展したことにより、最新の科学的な分類が求められている一方で、分類標準の普及率が低い地域での分類標準普及の必要性が高まっている。WHO-FIC が直面する課題を解決するには、我々がすでに保有する知識資産を再認識し、有効に管理することが不可欠である。この目的から、WHO-FIC の管理を改善するため、ビジネス・プランを作成する必要がある。

このビジネス・プランには、WHO の分類体系とその支援構造を 21 世紀に取り入れ、患者の治療目的から保健統計にいたるまで、発展を続ける保健情報について WHO の分類体系を位置づけるために実施すべきことがらがまとめられている。戦略の方向性、ビジネスの推進要因、必要となるリソース、潜在的パートナー、および今後の活動が記載されている。現在そして未来の関係者にポートフォリオの優先順位を伝え、現在の保健イニシアティブにとって分類体系が有意義なものとなるよう、認識済みの多数の課題を提示する。

1.1 ポートフォリオ：「国際分類ファミリー」

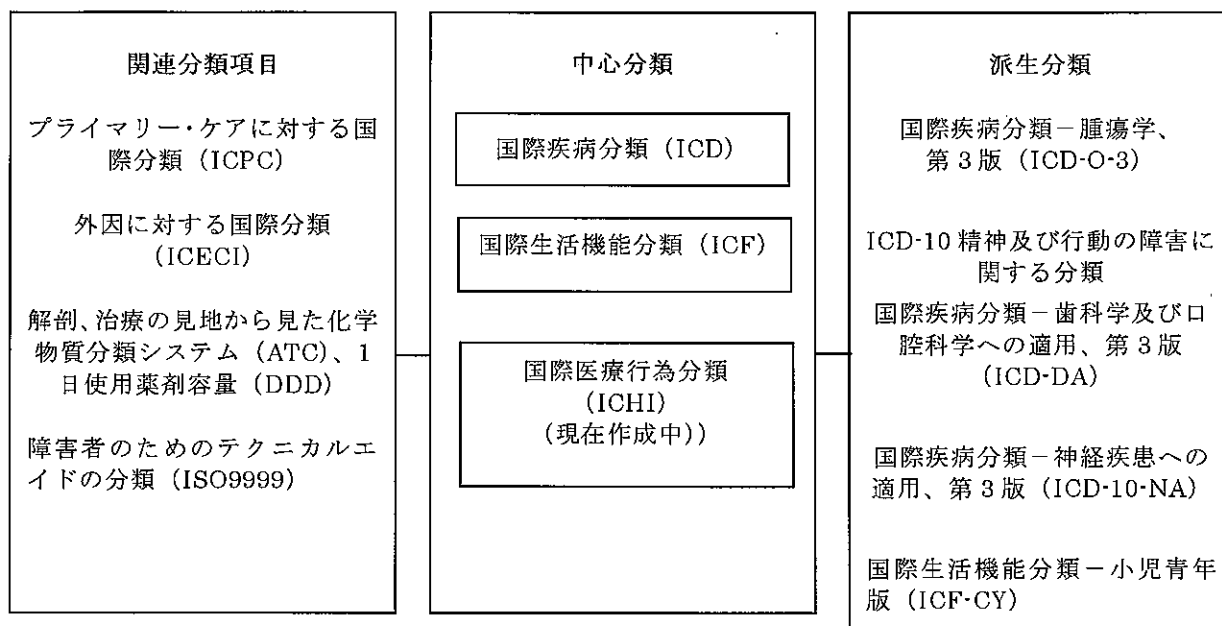
保健関連の重要課題を効果的に処理するには、強力な情報ベースが必要である。問題を識別し、記述する必要がある。基本的な原因を調査し、文書化しなければならない。進捗状況を監視し、実施したアクションを評価する必要がある。「国際分類ファミリー

（WHO-FIC）」として提示されている保健分野に関する WHO の分類体系は、保健情報の重要な情報ベースである。「ファミリー」という概念では、一連の統合ツールを使用して、死因、疾病、障害、健康などの主な保健項目について実践的かつ評価可能な方法で分類を行い、付属ツールを使用して、ユーザーを教育したり、保健情報システム内でデータの入力や利用ができる。

WHO-FIC は、ICD（国際疾病分類）の死因と疾病、ICF（国際生活機能分類－国際障害分類）の障害と健康など、重要な保健状況を取り込むための意味のある情報ツールを提示することを目的としている。ファミリー財には、特殊使用やプライマリー・ケアのほか、コーディング、命名法、用語集などに対応するための「関連」財を含め、その他の「派生

分類」も含まれている。これらの財は、多くの先進国で健康保険の基礎となっている。図1は、WHO-FIC の分類タイプを示している。

図1：WHO 国際分類ファミリー（WHO-FIC）の構成内容



中心分類には、死因、疾病、機能、障害、健康、医療行為など、保健システムの主要項目が含まれている。WHO の中心分類は、国際的な合意の下に作成されている。使用については、公的な合意が得られており、保健に関する国際的な報告について、ガイドラインとして使用するよう、承認および推奨されている。派生分類は、中心分類を基準に、中心分類の構造とクラスを採用し、詳細項目を追加および再調整して作成されている。関連分類は、中心分類の一部が参照元となる資料、または構造の特定レベルについて、中心分類の関連資料となる資料である。「ファミリー」分類を維持することは、互換性問題の解決とファミリー加盟国での合同利用を促進し、時間の経過とともにより高い融合性が得られ、保健情報システムでの使用状況の改善につながる

（詳細は、www.who.int/classifications/family を参照）。

1.2 WHO の資産

知的財産権：WHO は、複数の知的ネットワークの協力を得て、国際分類ファミリーを国際的公共財として作成したことにより、貴重な知的財産権を獲得した。分類は国際標準として幅広く利用されており、平均寿命、疫学の変遷、疾病の負担など、前世紀の保健状況の進捗について、非常に有益な知識を得ることができた。さらに分類は多くの先進国で、医療償還制度の基礎となっており、そうした制度自体が大規模な産業となっている。

知識ネットワーク：WHO は、積極的な知識ネットワークの協力を得て、過去 50 年にわたり WHO-FIC を作成した。現在、このネットワークには 13 の協力センターが参加し、さらに拡大を続け、アフリカ、東南アジア、西太平洋にもセンターが設立されている。ネットワークは、各国の統計部門で構成されており、主要な言語グループと主要な地域が含まれている。このネットワークは、WHO-FIC の実施と今後の展開について、莫大な知識リソースとなっている。

位置づけ：WHO は合法的な権限を有し、国際的な公衆保健の義務がある以上、合同で課題に対応し、解決策を構築するよう、すべての関係者を結集するための管理人として活動すべきである。財、使用者、提供者のあいだの相互依存関係は強化されており、これよりも優れた保健情報システムの作成を促進できる団体機関はほかにはない。

1.3 課題

WHO の分類について、開発、維持、実施、改正を行なうには、多くの課題がある。さまざまな分野の課題があり、活動中の業務に大きな影響を与えている。以下の記載の項目は、WHO のポートフォリオに存在する主な問題項目であり、これがすべてではない。

使用領域：WHO の分類は、歴史的にはもっぱら死亡原因を分類するための統計ツールとして開発されてきた。使用者のニーズが進化し、分類も進化して、疾病、障害、および保健報告にも利用されるようになった。こうした進化により、分類の使用方法を統計報告に限るか、あるいは償還制度や治療の監視などに使用範囲を拡大するかどうか、本来の目的をもう一度考える必要が生じている。多くの使用者は、分類の使用方法を単なる統計作業に限定することを望んではいない。

目的に応じた設計：現在の管理科学では、情報システムへの入力について、より正確な識別が求められている。たとえば、死亡原因の監視や保健システムの成果の評価を改善するため、ほかにも複数の次元が求められている。具体的には、ユーザー・ニーズの確認、問題の記述、疾病や介入のコード化、結果の評価などがあげられる。情報技術が大幅に発展したことにより、プライマリー・ケア、緊急状況、試験室、X 線と画像、薬局など、さまざまな情報源で電子保健レコードを作成し、データを統合することができるようになった。このように、さまざまな情報システムのあいだで相互接続をする必要があり、さらに WHO-FIC の各種成果を統合的に使用するには、分類体系の設計で新たな青写真を作成する必要がある。

アプリケーション・ツール：完全な分類を作成しても、その分類が必ず実施されとは限らない。使用者が財を実際に利用するかどうかは、現実世界での財のニーズと持続性の組み合わせによって異なる。分類を普及するには、適切なツールが必要になる。特定の加盟

国のニーズに対応できるカスタマイズ可能な汎用ソリューションが必要である。この目的から、WHO-FIC ネットワークと関係者は、世界各国のユーザーのニーズに対応する一貫性のある見方を展開し、動作可能なプログラムと普及のためのビジネスウェアを作成する必要がある。

国際的差違：現在の保健情報には、大きな差異が存在する。一方には、電子データベースにすべての保健情報が正確に保管されている人々があり、もう一方では、健康上の大問題を抱える数十億の人々について、情報がまったくない状況である。体系的な対策がとられない限り、この差異は消えるどころか拡大すると考えられる。WHO-FIC ネットワークは、WHO 分類を世界各地に普及するため、体系的な作業を実施しているが、普及目標は達成されていない。基本的には、他のセクターのインフラストラクチャーの不足（人口動態統計など）、あるいは定常的な保健情報システムの欠如が原因で普及が阻まれている。このような問題に対応するには、問題解決のための知的な戦略が必要である（10 ページの第 2.1 項「インフォメーションパラドックス」を参照）。

電子健康アプリケーションの改訂、改正、同時性：分類体系は、使用されることにより、そして科学知識の発展により進化を続けている。1990 年に開催された世界保健総会の第 10 回改訂では、10 年以内の改訂周期の中でシステムの適切な改正を行なうものとして ICD が承認された。保健に使用されるアプリケーション、サービス、およびシステムは、異機種混合性があるため、ユーザーのニーズに応じて、国際的なツールの作成や改正を行なうことは大きな課題である。証拠に基づいてコンセンサスを構築するためには、共通フレームワークと透明なメカニズムが必要である。そうしたアプローチは、国内外の複数の関係者による協力を必要とし、実用的な共通ツールを目標とすべきである（各国の情報システムに利用可能な電子バージョンなど）。

プライマリー・ケア版：世界の大半の人は、プライマリー・ケアを求め、また実際の治療もプライマリー・ケアで受けている。しかしながら、現在の WHO-FIC の要素は、プライマリー・ケアでの使用には適していない。現在のものは複雑かつ詳細度が高く、ユーザーの便宜は考えられていない。プライマリー・ケア環境で、ユーザーが関連情報の取り込みや文書化をするための、使いやすい WHO-FIC を作成することは大きな課題である。